

プロジェクターで投写する 動画の簡易作成方法

プレゼンテーションソフトの活用

プレゼンテーションソフトで動画ファイルが作成できます。

一般的に動画作成を行うには、専用の動画編集ソフトウェアが必要であり、その使用方法が難しいというイメージがありますが、プレゼンテーションソフトを使った簡単な動画作成方法、つまりスライドを動画にする方法があります。

■ご紹介する方法はPowerPoint® 2016でご説明しています。

■必要なもの

- ・ PowerPoint ®（2010以降のもの）のインストールされたパソコン
- ・ 伝えたいシナリオ
 キャッチコピー等文字データ化に必要です
- ・ 写真・ビデオデータ
- ・ 音楽データ（お好みで）

■その他

- ・ PowerPoint ®のバージョンによってメニュー表記が異なる場合があります。
- ・ 作業中はこまめにファイル上書き保存をお勧めします。

※WEB上にある記事データ・写真・音楽データは著作権で保護されているものがあります。店舗投影等商用利用の際はご注意ください。

（注）：本媒体上の他者商標の帰属先は、エプソンのホームページをご確認ください。

動画の作り方の流れ

◆流れ

- 1.スライドのサイズを指定する。
▼
- 2.写真・ビデオ・文字を配置する。
▼
- 3.アニメーション効果をつける。
▼
- 4.スライドの切り替えエフェクトを使用する。
▼
- 5.アニメーションやスライド切り替えが自動で開始するように設定する。
▼
- 6.動画形式でスライドを保存する

ポイント！

まずはここからチャレンジ！

◆複数の写真を一定時間で切り替える

お手元の写真、チラシ、ポスターデータ等を簡単に動画化できます。



◆ビデオ（動画データ）を活用

背景にビデオを再生し、文字を追加して動画のテロップや注釈等動きのある動画を作成できます。



動画上に文字キャプションも容易に可能です

スマートフォンの写真・動画は手軽かつ高画質で有効活用できます。

※なお動画は 2～3分でまとめることをお勧めします。見てもらう方を飽きさせず、制作・編集も容易です。

STEP①スライドのサイズを指定する（プロジェクターに合わせる）

◆スライドのサイズ指定

1.PowerPoint®を開く

2.メニューの「デザイン」をクリックし、
「スライドのサイズ」を選択（図1）

3.「スライドのサイズ指定」から「画面
に合わせる（16:10）」を選択し、OK
をクリック。（図2）

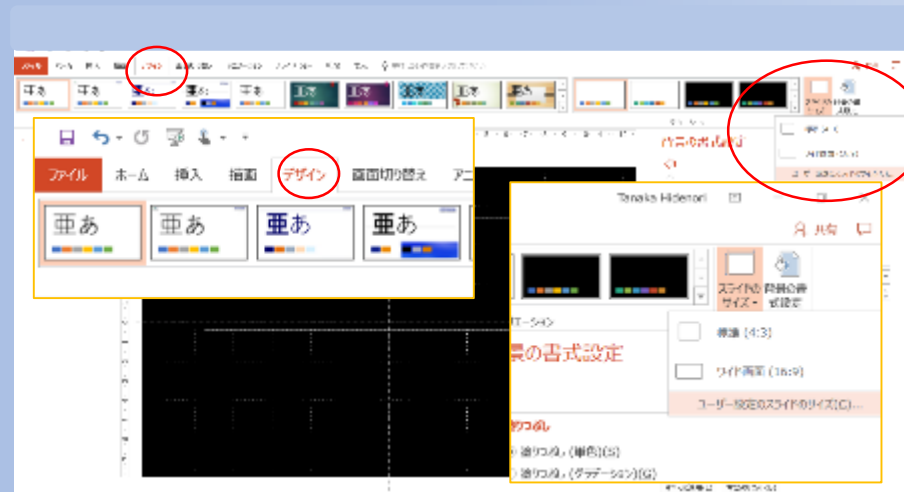


図1
メニューの「デザイン」から「スライドのサイズ」 「ユーザー
指定のスライドのサイズ」選択

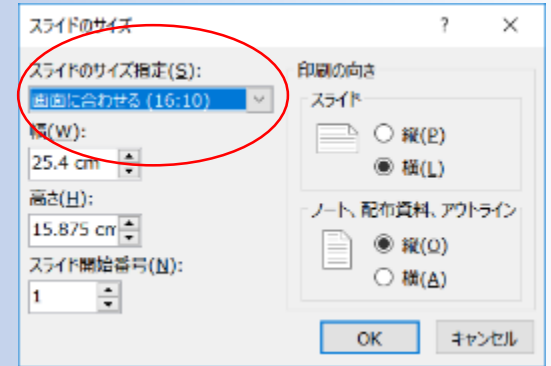


図2
プロジェクターの画角 [16:10] に合
せた形にします。その他は変更しない。

※このメニューから、プロジェクター
複数台連結した、幅広いスライドサイ
ズも指定できます。

◆背景色を変える場合

1.メニューの「デザイン」をクリックし、
「背景の書式設定」を選択（図1）

2.塗りつぶし単色を選び、お好みの色に
設定し、「閉じる」を選択（図3）



図3
塗りつぶし単色で背景色が変わります。お好みに応じて
「グラデーション」・「パターン」もご活用いただけます。

ポイント！ プロジェクターでは背景が黒だと投射すると透過して見えるため、
文字・写真・動画を目立たせる際に効果的です。

STEP②写真・ビデオ・文字を配置する。

◆スライドに素材を貼り付けます

1.メニューから「挿入」を選び、各ボタンでお好素材を呼び出してスライドに貼り付け（図4）

- ・写真：「画像」「フォトアルバム」
- ・ビデオ：「ビデオ」
- ・文字：「テキストボックス」

2.メインにする素材を決め、スライドサイズまで拡大する。（図5）、その後他の文字・図形等で装飾（図6）



3.素材の位置・形はレイアウトに合わせて簡単に変更可能（図7）

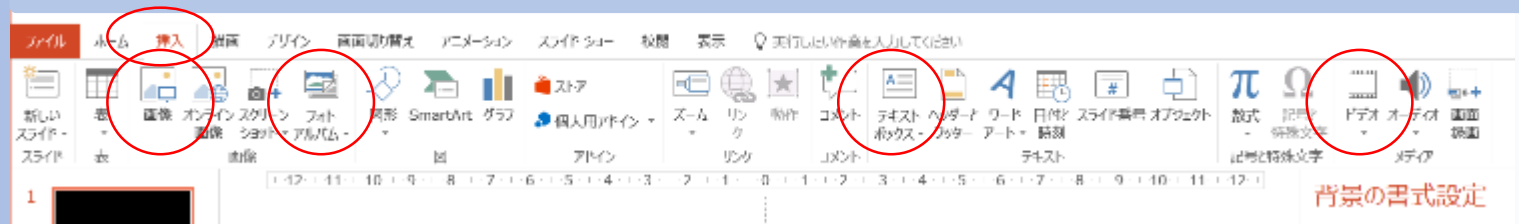


図4

メニューの「挿入」からお好みの素材を選択できます。



図5

スライド全面にビデオを埋めることもできます。

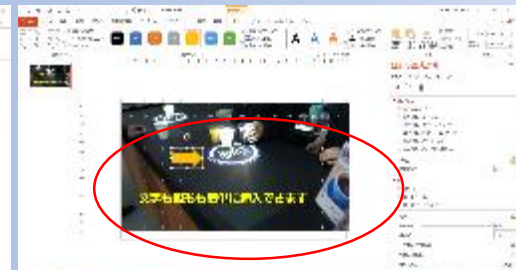


図6

文字・図形を活用してのビデオ注釈も簡単です。

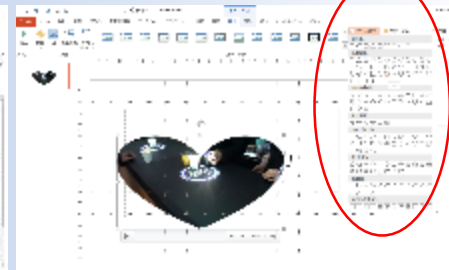
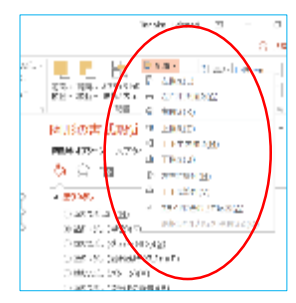
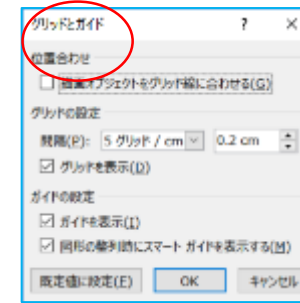
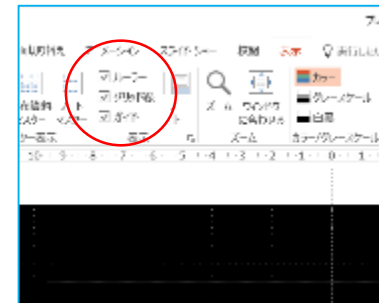


図7

ビデオファイルも変形できます。

ポイント！

文字・写真・動画を配置する場合、バラバラ配置を防ぐためにメニューの「表示」から「グリッド」「ガイド」を選択すると方眼紙のようにスライドが表示。配置位置の目安が明確になります。また「書式」から「配置」を活用すると素材配置の整理が容易に可能です。



STEP③ アニメーション効果を付ける

◆ 挿入した文字にアニメーション効果を付けます。

1.メニューの「挿入」からテキストボックスを選び、文字を入力



2.メニューの書式から文字の色などをお好みに応じて変更



3.アニメーションをつける場合、テキストボックスを選択しメニューから「アニメーション」を選択。(図8)



4.付けたいアニメーションを選択し、「開始」の右をクリックし「直前の動作と同時」を選択(図9)

アニメーションはお好みに応じてご選択ください。(図10)



5.「継続時間」でアニメーションを動かす時間、「遅延」でアニメーションが始まるタイミングを設定可能(図11)



6.映像との動きなどを確認したい場合はプレビューをクリック。(図12)

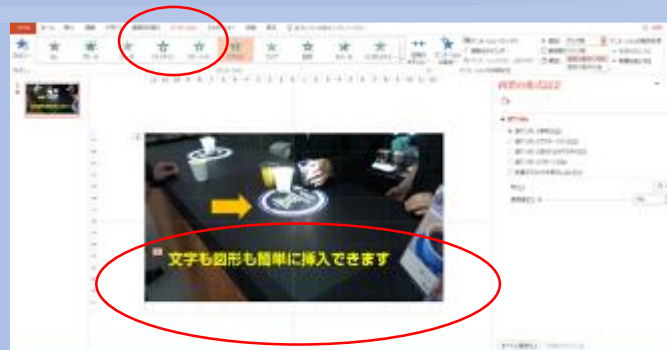


図8：効果を付けたい文字を選択している状態でアニメーションアイコンをクリック



図10：アニメーションは色々なパターンがあります。

- 1.開始効果：オブジェクトを登場させる効果
- 2.強調効果：表示してるオブジェクトを強調する効果
- 3.終了効果：オブジェクトを消去する効果
- 4.軌跡効果：オブジェクトを軌跡に沿って移動可能

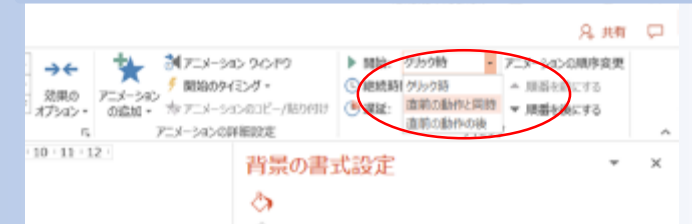


図9：この設定で動きが自動に発生します。
複数の文字を連続して行う場合は「直前の動作の後」を選択します。

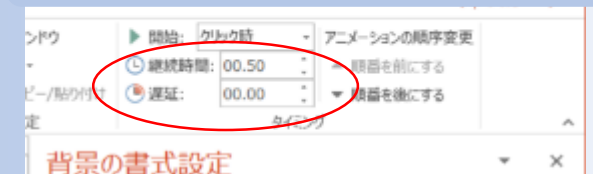


図11：継続時間を長くすれば、ゆっくりテキストが入ってきて、遅延を長くするとスライド切替の後半にテキストが入ります。



図12：プレビューでタイミングをチェック。

STEP⑤ スライドの切り替えエフェクトを使用する。

◆複数のスライドを切り替える場合の効果を設定できます。

1. 「画面の切り替え」タブをクリックし、切り替えエフェクトを選択（図13-14）



2. 「継続時間」には切り替えるに掛かる時間を入力（図15）

大きい数字を入力するとゆっくり画面が切り替わります。



3.画面切り替えのタイミングは「自動的に切り替え」を選択（図15）

秒数を指定するとこのスライドを表示しておく時間が設定可能です。

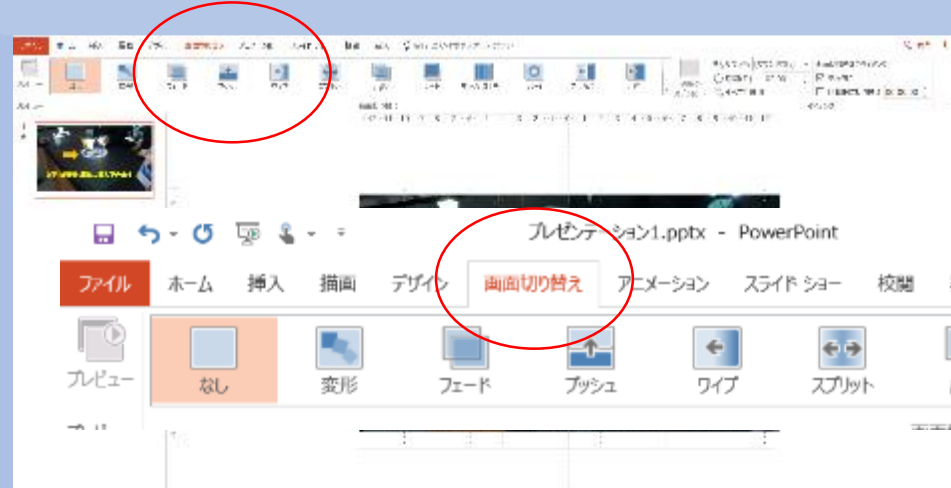


図13：効果を付けたい文字を選択している状態でアニメーションアイコンをクリック

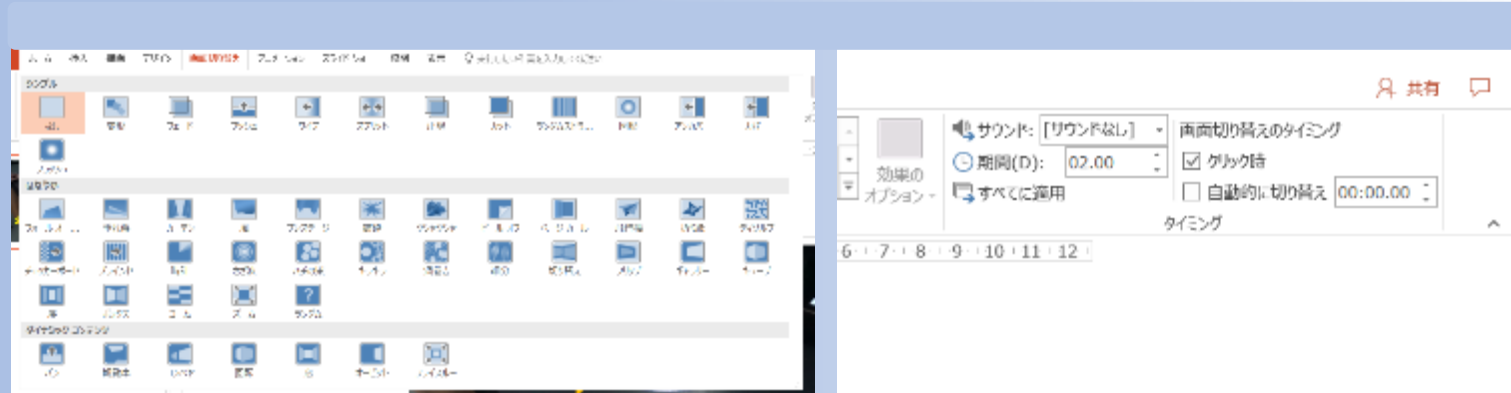


図14：色々なエフェクトを試してみましょう。

図15：スライド一枚毎の切り替えタイミングが指定できます。

ポイント！ 多くのエフェクトを活用すると、見てる側が疲れます。基本は1～2パターンに統一し、強調したいスライドのみ変化させる使い方をお勧めします。

STEP⑥ ビデオ ファイルとして保存する

■保存形式の変更・ビデオの作成

1.[ファイル]メニューで、[保存]を選び、PowerPoint® プレゼンテーション形式(.pptx)で最近の作業がすべて保存されていることを確認



2.[ファイル]、[エクスポート]、[ビデオの作成]の順にクリック（図16）



3.[ビデオの作成] 見出しの最初のドロップダウン ボックスで、必要なビデオの品質を選択。



4.各スライドの既定の所要時間は 5 秒です。そのタイミングは、[各スライドの所要時間(秒)] ボックスで変更できます。



5.[ビデオの作成] をクリック



6.[ファイルの種類] ボックスで、[MPEG-4 ビデオ(*.mp4)] を選択



7.[ファイル名] ボックスに、ビデオのファイル名を入力し [保存] をクリック（= 開始）



8.ステータスバーが一杯になったら完了（図17）

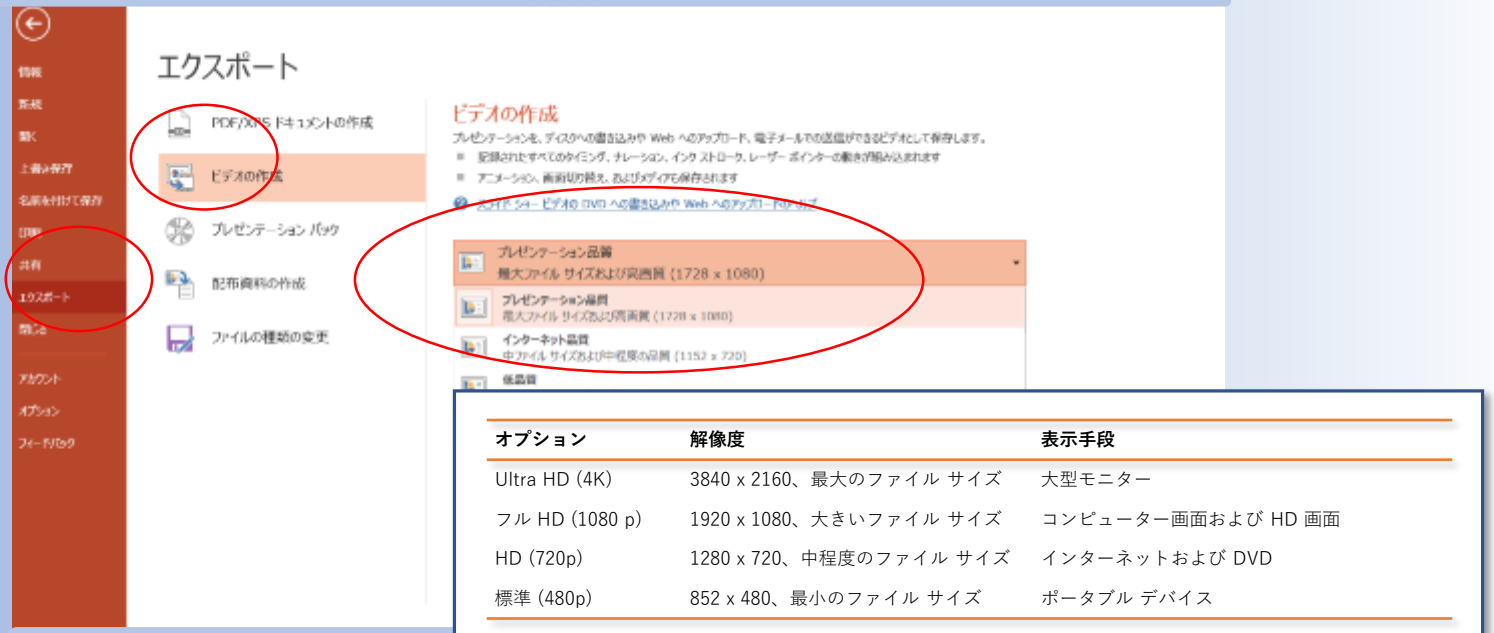


図16：スライド一枚毎の切り替えタイミングが指定できます。解像度は再生するプロジェクターに合わせます。

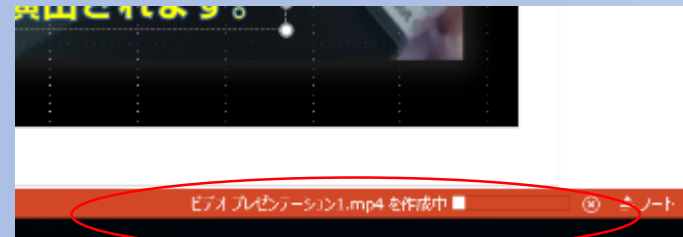


図17：画面の下にあるステータス バーにビデオ作成の進行状況が表示されます。ビデオの作成処理は、ビデオの長さやプレゼンテーションの複雑さによっては、数時間を要する場合があります。

ポイント！ 再生時間が長い・解像度の高いビデオの場合は、昼食中・パソコンを使用しない時・夜間などに作成されるよう、次の作業に移る直前に保存ボタンを押します。ほかの作業中に作成は終了し、動画作成の待ち時間の効率化が図れます。